

発行
徳之島町役場
編集
企画課
TEL
(2)1111



広報

徳之島

NO
74

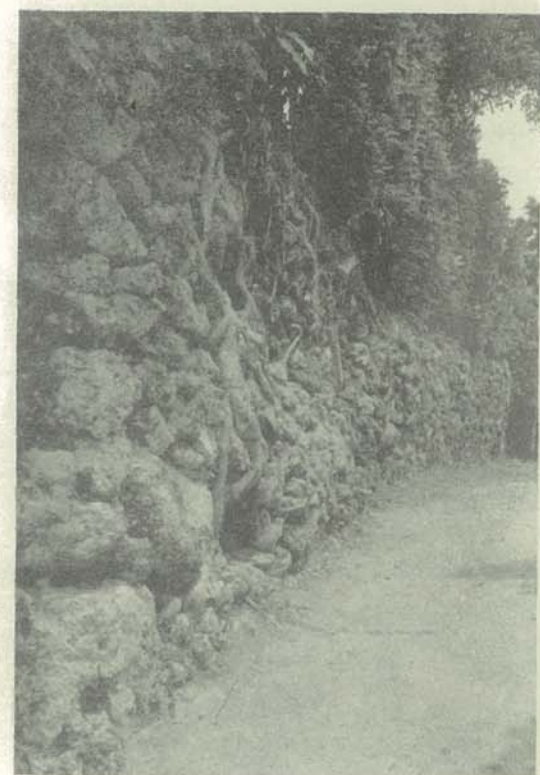
昭和47年
3月25日



観光 島をおとずれる観光客のほとんどが
"島の自然は素晴らしい"と言う。
その理由は開発という名のもとで破壊され
人々が気付かないうちに失なわれてしまつ
た自然が、徳之島にはまだ残されているか
らだ。それだけに、島の自然は人類の宝だ
ともいえる。
町では、自然美をそこなわないよう考慮
しながら関係施設の整備にあたっている。

花徳海岸の海水浴施設 3月完成予定

ガジマルの木根に抱かれた
縄文さながらの石垣





社会教育

家庭教育学級

スポーツや郷土の文化面など多岐にわたる社会教育活動が続けられている。

文化団体名

- 徳之島郷土研究会
- 浜踊り保存会
- 音楽同好会
- 写友会
- 民謡保存会
- 美術愛好会

スポーツ

- 徳之島町体協

南区「浜下り」保存会

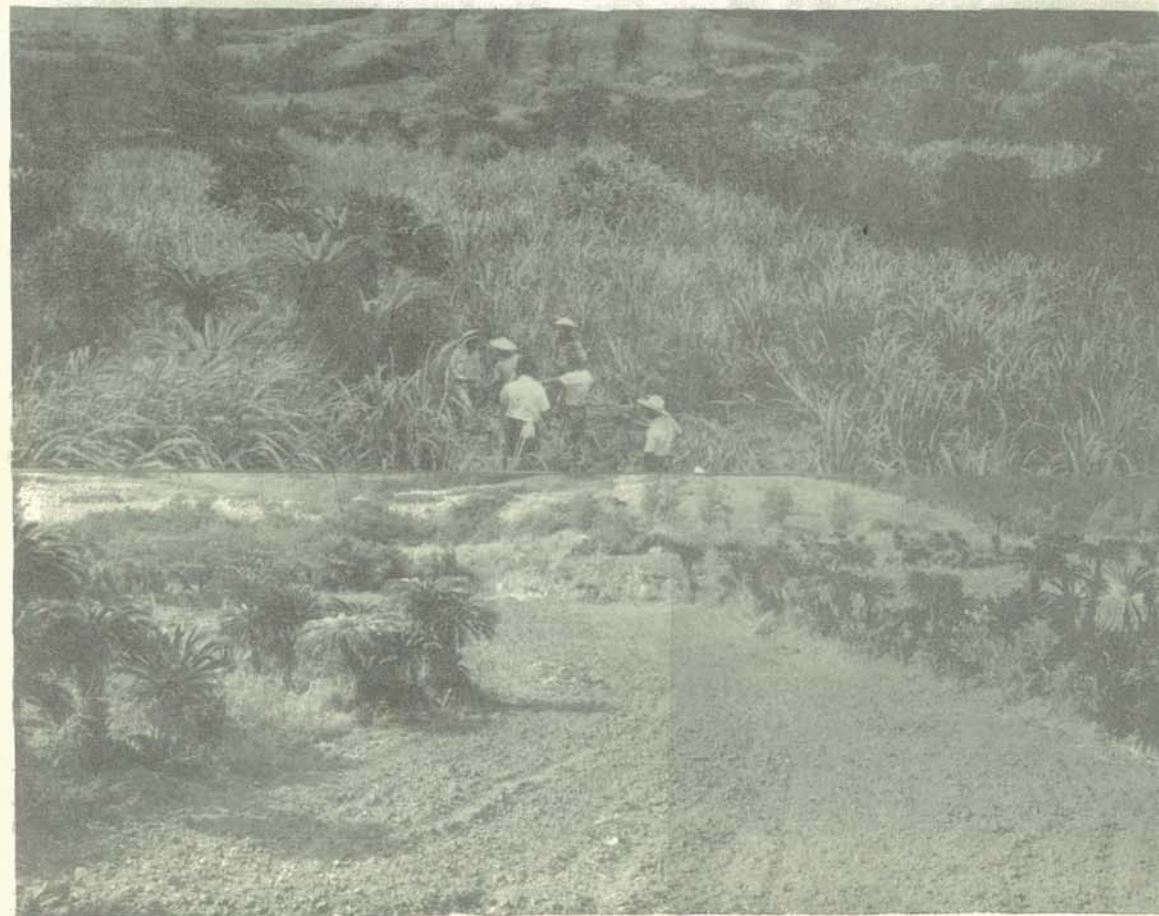


産業基盤 整備事業

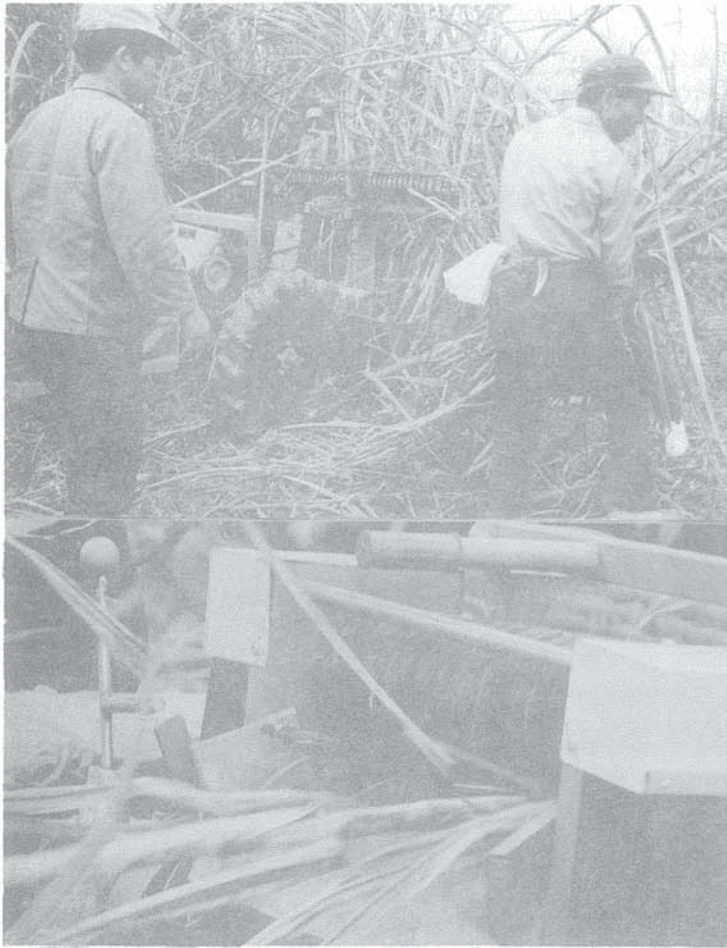
着実に進む

道路 産業基盤整備事業の一環として町内主要農道の整備が急ピッチで行なわれている。

(写真上は完全にコーラル舗装された亀徳・井之川線の一部。右は舗装以前=海岸線に沿って設けられた同路線は観光道路としても重要な役割を果している。)



畦はずし事業の推進に伴って従来の狭い耕地は見違える程に拡張され、機械化農業が可能となった



さとうきびと畜産

今期さとうきびの収穫には新型の刈取機や脱葉機がはじめて登場、労力不足に悩むきび作農家を喜ばせている。とは言っても刈取機、脱葉機ともに試作の域を脱していないというのがあらかたの意見であり、今後の開発に大きな期待が寄せられている。

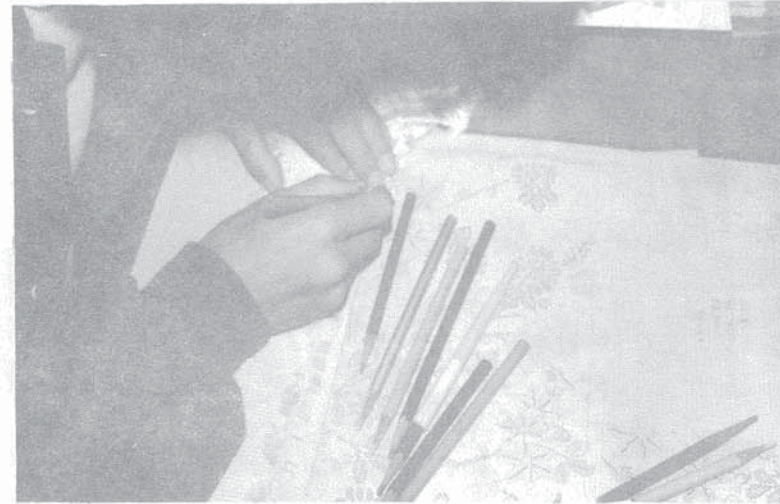
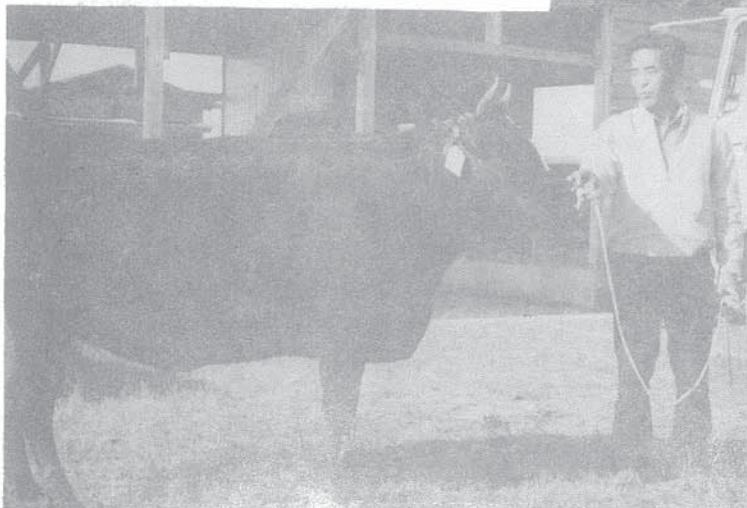
なお、今期のさとうきび生産量は8万4千500トンが見込まれている。



さとうきびと畜産との抱き合わせ農業という本町の振興施策ともあいまって、和牛を中心にした畜産は順調な発展をとげつつある。町内の和牛頭数1,200頭。

なお、さる2月には徳之島三ヶ町の畜産品評会が行なわれ、1部、2部とも上位入賞は本町がかつさらった。

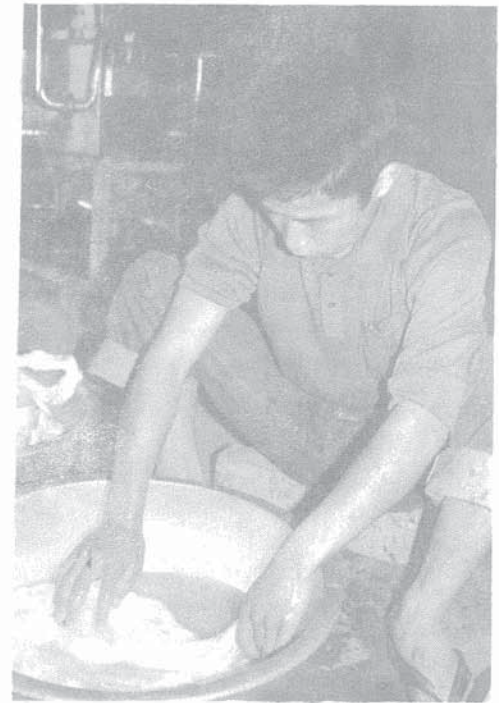
(写真上は、出品者各位。下は2部で優勝した手々部落の手山忠文さんの愛牛)



大島つむぎ



さとうきびと並ぶ基幹産業の大島つむぎは、昭和47年度中に約五億二千万円の生産が見込まれており、ここ四、五年来驚異的な伸びを続けている。
ところで、大島つむぎは一朝一夕にしてなる製品ではない。デザインや色つけしめなどのむずかしい技術を要する前工程を経て、さらに根気強い織工さんの手にかかると、はじめて製品として完成される。



亀津臨海埋立地

昭和45年に完成した亀津地区の臨海埋立地(3万坪)は、約90%が売却され、公共用地、都市計画事業に伴う換地を残すのみとなった。現在同地内では個人住宅をはじめ、工場や各種商店、事務所など徳之島の中核としての機能づくりのつち音が鳴り響いている。

なお、昭和48年度を初年度に北区地区の海浜埋立計画もすすめている

